

説明文書

1. 発表テーマ

遺伝子検査結果が早期の推定菌報告に至った *Streptococcus gallolyticus* subsp. *pasteurianus* による新生児髄膜炎の一例

2. 発表の背景

S. gallolyticus は髄膜炎、感染性心内膜炎、大腸癌、胆管癌などの病態と密接な関係があり、その亜種により推察する病態が異なる。今回検出された菌は、*S. gallolyticus* の中でも新生児髄膜炎を引き起こす菌であるが、臨床での認知度は低く、検出は非常にまれである。今回、遺伝子検査の結果より早期に本菌の推定に至った症例を経験したため、知見を深めるためにも症例報告を行いたい。

3. 発表の目的

新生児髄膜炎はまれな疾患であり、かつ *S. gallolyticus* による髄膜炎の分離例は少ないため、学会発表を行うことで知見深め、今後の検査の参考になると考える。

4. 倫理的配慮

個人情報やそれを特定できるような情報は一切外部に提供されない。

5. 研究者の連絡先

日本赤十字社和歌山医療センター 検査部 検査第三課

細菌検査係長 中尾歩美

0734-22-4171 (代表) 1617 (内線)